

## 年代で異なる暮らし向きの実感 ～「個人消費アンケート」より～

### 暮らし向きの実感DIは年代により大きな差

ひろぎんHD経済産業調査部が今年7月に広島県内の男女を対象に実施したアンケート調査によると、1年前と比べた「最近の暮らし向きの実感DI」は、20～30代の+0.4%ポイントに対し、40～50代は▲20.4%ポイントと、暮らしに対する満足度に差がみられる結果となりました(図表1)。

物価高が続く中で、両年代ともに「世帯支出DI」は+30%ポイントを超え、「世帯収支DI」も2桁マイナスとなっていますが、20～30代の世帯収入DIは+22.4%ポイントと、40～50代(+8.6%ポイント)を大きく上回っています。

### 40～50代のマインド改善が消費回復のポイント

「暮らし向きの実感」の違いは、教育費負担などライフステージの違いによるところも大きいと考えられますが、生産年齢人口の減少加速の中で、賃上げ等が若い年代を中心にわれ、そのことが影響している可能性があります。

因みに、最近の月収と夏季ボーナスについて、1年前と比べて「増加」した人の割合は20～30代が4割近くに達する一方で、40～50代は2割台にとどまっています(図表2)。

ただし、選択的費目の「世帯支出DI」をみると、40～50代においても、1年前と比較して「収入が増加」した世帯では概ねプラスとなっています(図表3)。こうしたことから、今年度の賃上げが広く浸透していく一方、物価の伸びが鈍化していき、40～50代のマインドの改善に繋がるかが今後の消費回復の一つのポイントになるとみられます。

図表1 24年1-6月の世帯収支の状況と最近の暮らし向きの実感 (%ポイント)

		20～30代 (n=504)	40～50代 (n=676)	合計 (n=1,180)
DI	世帯収入	22.4	8.6	14.5
	世帯支出	39.5	33.9	36.3
	世帯収支	▲10.5	▲27.2	▲20.1
	暮らし向きの実感	0.4	▲20.4	▲11.5
物価の負担感		57.1 %	55.5 %	56.2 %

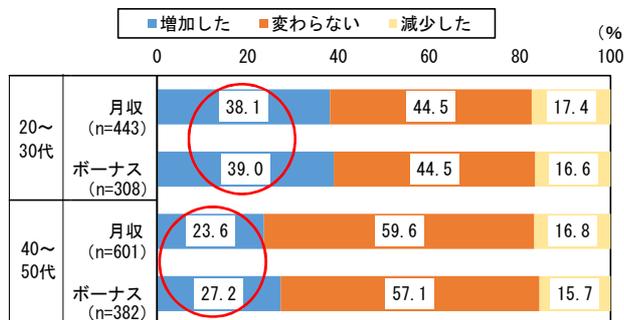
(注1) 世帯収入DI・世帯支出DI=1年前と比べて世帯収入(支出)が「増加した」-「減少した」回答割合

(注2) 世帯収支DI・最近の暮らし向きの実感DI=世帯収支(最近の暮らし向き)が「良くなった」-「悪くなった」回答割合

(注3) 物価の負担感は「強く負担に感じている」人の割合

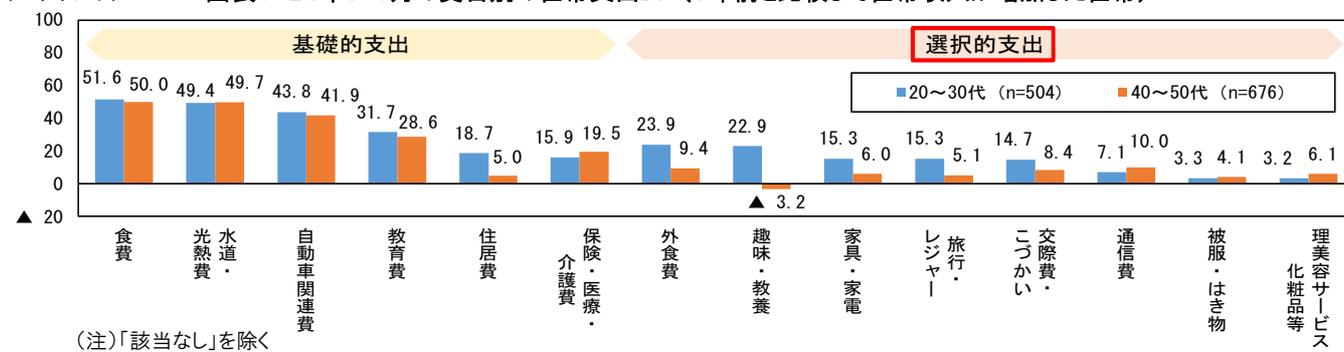
(資料)ひろぎんHD経済産業調査部「広島県内の個人消費の動向(2024年7月調査)」(図表2-3も同じ)

図表2 最近の月収と夏季ボーナスの状況



(注)1年前との比較、不明・対象外を除く

図表3 24年1-6月の費目別の世帯支出DI (1年前と比較して世帯収入が増加した世帯)



(注)「該当なし」を除く

- ◆ 本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ◆ 本資料は、信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容等は作成時点のものであり、今後予告なく修正、変更されることがあります。資料のご利用に関しては、お客さまご自身の責任において判断なされますよう、お願い申し上げます。
- ◆ 本資料に関連して生じた一切の損害については、責任を負いません。その他、専門的知識に係る問題については、必ず弁護士、税理士、公認会計士等の専門家にご相談のうえ、ご確認ください。
- ◆ 本資料の一部または全部を、当社の事前の了承なく複製または転送等を行うことを禁じます。
- ◆ 本件に関するご照会は、ひろぎんHD経済産業調査部 担当：助永 (TEL082-247-4958) までお願いします。